

平成 31 年度 県民の環境活動支援事業

ちば里山カレッジ「森を知ろう・森に学ぼう」実施報告書 (2)

第 2 回「生物多様性保全の森づくり」

特定非営利活動法人ちば里山センター

題名	ちば里山カレッジ「森を知ろう・森に学ぼう」 第 2 回「生物多様性保全の森づくり」 講義：「生物多様性保全の森づくり」 実習：「全国植樹祭の森見学」 実習：「ちば千年の森の見学」 講師：農林総合研究センター森林研究所 主任上席研究員 福島 成樹
日時	令和元年 7 月 28 日 (日) 9:30~17:00
会場	千葉県緑化推進拠点施設 研修室 全国植樹祭の森 清和県民の森 ちば千年の森
出席者	受講生 24 名 (12 市)・講師 1 名・スタッフ 3 名
内容	9:30~10:30 講義：「生物多様性保全の森づくり」 講師：農林総合研究センター森林研究所 主任上席研究員 福島 成樹 11:00~12:00 実習①：「全国植樹祭の森見学」 講師：農林総合研究センター森林研究所 主任上席研究員 福島 成樹 12:20~13:20 昼食 清和県民の森事務所 14:00~15:00 実習②：「ちば千年の森の見学」 講師：農林総合研究センター森林研究所 主任上席研究員 福島 成樹
報告	<ul style="list-style-type: none"> ・第二回の里山カレッジでは、里山整備の中で何に着目し、何を選択すればよいのか。福島講師は生物多様性に着目した里山整備の考え方を整理した。 ・生物多様性保全林では、種の多様性、多様な生態系、種の遺伝的多様性という 3 つのレベルチェック、利用目的にあった森林のイメージを決め、生物多様性保全機能の高い整備を行なう。 ・鳥類、昆虫、希少植物種など生物の保全を対象とする目標林型を定め森林整備する。 ・平成 15 年に行なわれた全国植樹祭の会場（鎌足さくら公園）に移動し、福島講師が森づくりの考え方を説明した。造成地に一から森づくりをした場所で、コナラーヤマザクラ林など 6 タイプに区分されており、植樹当初の様子、経年変化の状況を福島講師の解説とともに観察することができた。受講生から混植した樹木の生育状況などいくつかの質問があり、関心の高さがうかがわれた。 ・ちば千年の森では島に通じる吊橋は普段から施錠され、人為的影響が少ない環境であり、多様な生き物の宝庫となっている。 <p>シカの食害予防ネットの内外で異なる植生を観察した。この場所はヒメコマツなど希少樹種の生育実験や、動植物や昆虫調査、林内の照度調査も行い、調査結果を踏まえて手入れをしているとの説明で、動物、植物両方の生物多様性ということについても考えさせられる実習となった。</p>

添付資料（写真）



受講生の皆さん



福島講師



鎌足さくら公園



アカマツヤマザクラ林を見る



テングス病にかかったサクラ



アカマツの経年変化を見る



シカの食害予防のネットの内外を見る



竹林整備モデルを見る



保護中のホテイチク



エビネなど希少植物も



さまざまな種類のキノコが発生



豊英ダムの上で

報告書作成：藤田隆